

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

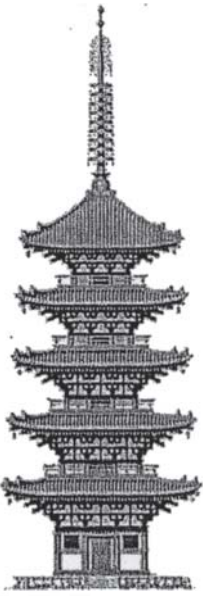
皆さん、こんにちわ。日本
佛教と聖徳太子の生涯がテ
マの今年のかかわら版。今月は
聖徳太子の師である慧慈と覚
智についてです。

★高句麗僧・慧慈(えじ)

五九四年、太子の下で三
宝(仏・法・僧)興隆の詔(み
ことのり)が発せられ、倭国
は独自の仏教国として歩み始
めます。

五九五年、高句麗から慧慈
という高僧が来朝。

慧慈が太子と会って問答(も
んどう)したところ、一を聞い
て十を知る太子の理解力に「こ
れはまさしく真人(ひじり、し
んじん)」と感嘆。以来、慧
慈と太子は師弟関係となりま
した。



真人とは道教の体得者を意
味する呼称。当時の倭国に対
する大陸や朝鮮半島の認識の
一端が垣間見えます。



高句麗と法隆寺の慧慈像

★謎の覚智(かくか)

日本書記が次のように記し
ています。曰く「内教(仏教)
を高句麗僧慧慈に習ひ、外典
(儒教)を博士覚智に学ぶ」。
太子の師についての記述です。
慧慈来朝に先立つ五九三年、
太子は覚智に師事したとされ
ています。

百済系渡来人と言われる覚
智は日本書記以外の文献には
登場せず、謎に包まれていま
す。

当時末期を迎えつつあった
ササン朝ペルシャから長安に
来て、後に朝鮮半島を経由し
て倭国に渡ったペルシャ人と
いう説もあります。

★隋による中国統一

この頃、大陸では隋が隆盛
を極めていました。
五八一年(太子九歳)、隋
が建国され文帝(楊堅)が即
位。文帝の治世は六〇四年(同
三十二歳)まで続きます。

五八九年(同十七歳)、隋
は陳を滅ぼして中国を統一。黄
巾の乱(一八四年)以来、実
に四〇五年ぶりに中国の分裂時代
が終わりました。

その後、隋は四度にわたつ
て高句麗と交戦(麗隋戦争)。
隋による中国統一や朝鮮半
島侵攻は、当時、東アジアの
新興国であった倭国にとって
は一大事。

隋が仏教を篤く保護してい
たことや、律令制を完備した
先進国であったことは、その
後の太子の治世に影響を与え
ます。

その随との関係構築のため、
太子は遣隋使を派遣します。
六〇〇年(同二十八歳)が第
一回。六〇七年(同三十五歳)
には小野妹子が派遣されます。

★三人の知恵袋

五世紀から六世紀の倭国に
おいて、物部氏、蘇我氏と並
ぶ有力豪族のひとつであった

秦氏は新羅系渡来人。
秦河勝(はたのかわかつ)
は太子の側近。五八七年の物
部守屋との決戦の際、迹見赤
橋(とみのいちい)に命じて
守屋を射抜いた後、その首を
斬り落としたのも秦河勝です
(先月号参照)。

当時の朝鮮半島は、高句麗、
百濟、新羅の三国時代。いず
れも隋との外交関係に腐心し
ていました。

東アジアの新興国・倭国の
指導者となった太子にとって、
師となった高句麗の慧慈、百
濟系の覚智、そして側近の新
羅系の秦河勝は、朝鮮半島や
隋の情報をもたらし、対応を
相談できる貴重な知恵袋(ブ
レイン)だったと言われてい
ます。

★遣隋使、冠位十二階、十七 力条憲法

仏教国の建設に取り組みつ
つ、朝鮮半島や大陸の国際情
勢にも対応することが求めら
れた太子の治世。

来月は、六〇〇年の遣隋使
派遣、そして六〇三年の冠位
十二階と六〇四年の十七力条
憲法の制定に至る背景をお伝
えます。乞ご期待。

